萬葉集略解 十七上

和書門
類 二〇四三九
號
函 五八
架 三
冊 二四

内閣文庫
和書
類
號 二〇四三九
冊 三二
函 二六
架 二六三

内閣文庫
番號 和 20439
冊數 32 (26)
函號 263 45

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

淺草文庫

萬葉集卷第十七

天平二年庚午冬十一月太宰帥大伴卿被任大納言上京時従人等別取海路入京於是悲傷羈旅各陳所心作歌十首（上京之時陸路ヲ経ズ海路ヲ着キヨリ）

○同十年七月七日大伴宿禰家持獨仰天漢聊述懷歌一首

○同十二年十一月九日大伴宿禰家持追和太宰時梅花新歌六首

○同十三年二月右馬頭境部宿禰老麻呂讃三香原新都歌一首 并短歌

○同年四月二日大伴宿禰書持詠霍公鳥贈兄家持歌一首（名文伝奈良宅の字ヨリ）

三日内舍人大伴宿禰家持從久邇京報送弟書持歌三首

○田口朝臣馬長思霍公鳥歌一首

○山部宿禰赤人詠春鶯歌一首（都ヲ邊ヨリ赤ト明ラ誤ヘリ）

○同十六年四月五日大伴宿禰家持於平城故郷作歌六首（元ノ草本）

文の詞と多異なり○同十八年正月白雪零左大臣橘卿率王卿等參入
太上皇御在所作歌五首（十六首異文）○同七月越中守大伴
宿祢家持赴任時大伴坂上郎女贈家持歌二首（宿祢の下家持の字
を脱せり本文大伴坂上の上姑の字なし）○更贈越中國歌二首○平羣氏女郎贈越
中守大伴宿祢家持歌十二首○八月七日夜宴飲越中
館下時守大伴宿禰家持歌一首（本文夜集于守大伴宿祢家持館宴歌とす）掾大伴宿
祢池主作歌三首（掾と掾と選いの下皆選ばず）守大伴宿祢家持歌二首
掾大伴池主歌一首（宿祢の字と異なるいの下皆選ばず）守大伴家持歌一首
大目秦忌寸八千島歌一首○大原高安真人作歌一首
（本文の詞と異なり）○守大伴家持歌二首○史生土師宿祢道良歌一
首○大目秦忌寸八千島館宴歌一首○九月二十五日
大伴家持遥聞弟喪感傷歌一首（弁短歌）○十一月越中

守大伴家持大帳使掾大伴池主還到本任時相歡歌二
首（本文の詞と異なり）○同十九年二月二十日大伴家持卧病悲傷
歌二首（弁短歌）○守大伴家持贈掾大伴池主悲歌二首
（弁序）（本文二月二十年二月二十九日云々の歌一字あり、たの歌ものつくるものなるを信ずるもれば別なり）○姑洗二日掾大
伴池主更贈歌一首（弁短歌）○三月三日（姑を估と誤れば別なり）（弁序と異し）
大伴家持送掾大伴池主七言詩一首（弁序）四日大伴
池主奉和守家持詩歌二首（弁短歌）五日掾大伴宿祢
池主答守家持詩一首（弁序）○同五日大伴家持短歌二
首（本文卧病作之とす）○二十日大伴家持起戀情哥一首（弁短歌）四
首○四月大伴家持未聞霍公鳥歌二首（本文の詞と異なり○本文にては三月二十九日
大伴云々とあり本文の左注を見れば別なり）○大伴家持二上山賦一首（本文にては三月二十九日
の歌八左注を見れば別なり）○四月十六日大伴家持聞霍公鳥述懷歌一

首○大目秦忌寸餞大伴家持歌二首（忌寸の下八十島の字を脱せり）○（六月二十日と云へり）守大伴家持遊覧布勢水海賦一首并短歌（六月二十三日）（右の方注あれば別とす）（日付云へバ左の方の方注あれば別とす）掾大伴池主敬和遊覧布勢水海賦一首并一絶○二十六日掾大伴池主餞守大伴家持時家持作歌一首　分内藏忌寸繩麻呂餞守家持歌一首　守大伴家持和繩麻呂歌一首○大伴池主傳誦石川朝臣水通橘歌一首○同日守大伴家持館飲宴歌一首○二十七日大伴家持立山賦一首　二十八日大伴池主敬和守大伴家持立山賦一首并二絶○三十日守大伴家持贈掾大伴池主歌一首并一絶（本文の注と異なり）　五月五日掾大伴池主報和守家持述懷歌一首并二絶（本文の注と異なり）（本文二日とあり）○九月二十六日守大伴家持思放逸鷹夢感悅二首并短歌（脱カ）

（化寸の字と脱せり）○高市連黒人歌一首○同二十年大伴宿祢家持歌四首（本文正月二十九日とあり）○守大伴家持春出擧巡行諸郡當時所屬歌九首（本文ホトトギスの下の字と脱せり）○大伴家持怨鶯晩哢歌一首○又造酒歌一首

天平二年庚午冬十一月太宰帥大伴卿被任大納言兼帥
如舊上京之時陪從人等別取海路入京於是悲傷羇旅各
陳所心作歌十首　元暦本陪を傔に作人の字あり

和我勢兒乎安我松原欲見度婆安麻乎等女登母多麻藻
可流美由

わがせこをあがまつばらよみわたせばあまをとめどもたまもかるみゆ

背子はそこに吾松原ゆ見わたせばといへるに同じくいづくにもあれ松ばら
なるを吾待といひかけたり

右一首三野連石守作

荒津乃海之保悲思保美知時波安禮登伊頭禮乃時加吾
孤悲射良牟

あらつのうみしほひしほみちときはあれどいづれのときかわがこひざらん

和名抄筑前宗像郡小菜大菜とあり今のはちぐべ、岸十二十
立ちそゆ
伊蘇其登爾海夫乃釣船波底爾家利我船波底牟伊蘇乃
之良奈久
いそごとにあまのつりあねがてふりわがあねたてんいそのしらなく
磯ごとに海ごとに海人の釣り舟あわび神をまつる舟いづくにかたれぬと
昨日許曽敷奈底婆勢之可伊佐奥取叱治奇乃奈太手今
日見都流香母
きのふこそふなでせしかいさおとりしちきのなだてつるかも
いさおとり枕詞しちきのなだは神中物を持ち運ぶ伝説ありしちきのな
だ　なは名なれども天徳四年六月廿一日是日備前備中淡路ホ
飛驛至備前使申賊船二艘純友ホ也侵響奈多扨舟曉道疑入京狄
万解十七上　四

ラ　源氏物語むらづくりよりひぢきのなだ　なだは名なり
うれめの言、言ときしめよ　ときしめは祭りまたは祝ぎの意
このたびはゆかとひぢきといひけるとぞ　ひぢきのなだ　ゆかは
きの灘なること、そ比治奇とは比治奇の語なるもあんらぶ
比治奇とあるをれて、ひぢきを度の語とせんはいかがなれど
淡路島刀和多流船乃可治麻爾毛吾波和須禮受伊弊乎
之曽於毛布
あはぢまとわたるふねのかぢまにもわれはわすれず家をしぞおも
かぢまは梶取なり　之唐衣ホ也次ホ大船乃のあきて海未通女の言、多
麻波夜須の言、家ホ底母の言、大海乃の言の尤
ホ右九首と者
多麻波夜須武庫能和多里爾天傳日能久禮由氣婆家乎

之曽於毛布

たまはやもむこのわたりにあまづたふひのくれゆけばいへをしぞおもふ

むこやも、むこの枕詞

家爾底母多由多敷命浪乃宇倍爾思之乎禮婆於久香之良受母

いへにてもたゆたふいのちなみのうへにおもひしをればおくかしらずも

一云宇伎底之乎禮八

おほふねにうきてのる事なるを、浪のうへなればかくよみたるなり、

おくかは奥處のこゝろ、うきてしをればとあるはかなへり、こゝにも

宇伎底之とありて一云とるべし

大海乃於久可母之良受由久和禮乎何時伎麻佐武等問之兒等波母

おほうみのおくかもしらずゆくわれをいつきまさむととひしこらはも

旅立の時の事なればかへるといへるは妻にはあらで、ついでゝ別し

妹をいふ

大船乃宇倍爾之居婆安麻久毛乃多度伎毛思良受歌乞和我世

おほぶねのうへにしをればあまぐものたどきもしらずうたこそわがせ

天雲は舟のおぼつかなきをいへり、たどきはたづきと同じ、歌乞は未十二

歌方ともいひて、そのことあれば乞は方の誤なるべし、うたかたは泡のつぶ

してあやふきをいへり、わがせは同船の人をさして

諸本如此可尋之　此七字後人の書入なるべし

海未通女伊射里多久火能於煩保之久都努乃松原於母保由流可聞

あまをとめいざやすてくひのおぎしくつめのまつぶらかなしゆるのも
法大のやくとりよを思ふ、つぬ八坐三わぎしるよみをぬハこせつ公次也
つるのおかゆいつのしめさんとよ、神名帳摂津武庫郡ノ名次神社ニ
て、和名抄ノ国名津門のこそ〻〻

右九首作者不審姓名

十年七月七日之夜獨仰天漢聊述懷一首

多奈波多之船乗須良之麻蘇鏡吉欲伎月夜爾雲起和多流

たなばたしふるのかそらまそかゝみきよきつくよにくもたちわたる

初句しハ神楽、まそかゝみ枕詞、きよきを清とそ〻る〻

右一首大伴宿禰家持作

追和太宰之時梅花新歌六首　孝謙天平二年所作のかゝて

氣ハ勢ノ誤

の梅花三月三十三日帥宅宴、それを十二年を経て、追和せ
らるゝ也

民布由都藝芳流波吉多禮登鳥梅能芳奈君爾之安良禰
婆遠流人毛奈之

みちのくきるいきこれどうめのはなきみふしあらねばをるひともなし

蕤ハ清音ニ用ル、花ハ花ニ五の大武仁てのむつまこちのきこゝ
かくこそうめをゝてたのきをくいつるよわしこるゝ

烏梅乃花美夜萬等之美爾安里登毋也如此乃未君波見
禮登安可爾氣年

うめのはなみやまとにあらくやかくのこきみハこれどあかるふせん

こゝのとハこゝのやとゝいまをてめている後、ゝハ繁きこゝ、あかるふせん
ハあかるゆゝせんのこゝ、あかるハ不知とこゝふて以ふ、ゝ、ゝ、ゝ例ふ、

氣宮本勢ヨ他、梅ハミ山のまのさげきぶぬくうそ、そ後のあれぬぬくや、
いつもかく半ちとそれぐ他ぐらんとりそ

春雨爾毛延之楊奈疑可烏梅乃花登母爾於久禮奴常乃
物香聞

ちるとあふ之えしやなきこのうめのちるをしたにおれぬづねのものも
可ハ等の誤なるべし、柳と梅と共を同くしてかくまち毎のちるものとり
〻、物の下古本能のこゝろ

宇梅能花伊都波乎良自等伊登波禰登佐吉乃盛波乎思
吉物奈利

うめのはないつはをらじと思ねどさきのさかりハをしきものなり
自ハ目の誤なるべしをらんとのことそいつとそとわんとそハ〻ねども、
生のは八者せられてわうきあるべし〻

遊内乃多努之吉庭爾梅柳手理加謝思底婆意毛比奈美
可毛

あそぶうちのこゝろしきふかきうめやなぎをりかざしてハおもひなみかも
をりかざしてだハ折そ〻たゝバのことゝハを得るべし、宮ちう内ハ日の誤そ、

あそぶひのちうんこいつ

御苑布能百木乃宇梅乃落花之安米爾登妣安我里雪等
敷里家牟

みそのゝのかきのうめのちるはなのあるとびあがるゆきとふりけん
ミそのゝハ太宰の園とをよ、百木ハ梅のえきと云

右天平十二年十一月九日大伴宿禰家持作

讃三香原新都歌一首并短謌　三香原新都ハ別久迩都ゝ
六ヶ年後久迩新宮ゝのあり、布當宮ゝ〻ハ、考ハ六ヶ年後ゝ

山背乃久爾能美夜古波春佐禮播花咲乎乎理秋佐禮婆
やましろのくにのみやこはるされば花さきををり秋されば
黄葉爾保比於婆勢流泉河乃可美都瀬爾宇知橋和多之
もみぢにほひおほせる いづみのかはのかみつせにうちはしわたし
余登瀬爾波宇枳橋和多之安里我欲比都可倍麻都良武
よどせにはうきはしわたし ありがよひつかへまつらむ
萬代麻底爾
よろづよまでに
おびせるハ常ゆせるを、泉川ハ今の木津川を、よどゝ云ハ小のよどゝ云、
うきはしハ和名抄浮橋字伎波之、神代紀高橋浮橋と天鳥船を造らん、又
天安河に浮橋を造らんゆ、浮橋ハ二ゝ橋を射れバ水に浸浮く
を橋なるべし、こゝも筏なるのゆくうけなる橋なり、只係そめの橋ゝ

反歌
楯並而伊豆美乃河波乃水緒多要受都可倍麻都良年大
宮所
たゝなめていづみのかはのみをたえずつかへまつらんとこゝ
ゝをいはゆ、こゝ小脇をゝ、こゝみとの俗ざるべくはをんとゝ
右天平十三年二月右馬寮頭境部宿禰老麻呂作也
詠霍公鳥歌二首
多知婆奈波常花爾毛歟保登等藝須周無等来鳴者伎可
奴日奈家年
たちばなハとこはなにもかほとぎすしばしばきなこのゝゝ
ゝをいはゆ、こゝ一云花はあれとゝ、ゝゝぎすのこゝをいはゆ
なゝハ常ゆなきゝん

珠爾奴久安布知乎宅爾宇恵多良婆疫麻霍公鳥可禮受
許武可聞
たまぬくあふちをいとうとてこらばやまちをしぎのしばなくこのし
楝の花を苦むと要文るこゝていふ
右四月二日大伴宿禰書持從奈良宅贈兄家持歌二首
こゝに歌の字の上和の字あるべき目録のまゝとよめる
橙橘初咲霍公鳥囀囀對此時候詎不暢志因作三首短
歌以散鬱結之緒耳　橙はあぐちなる之改む囀字なる於耕切鳥
鳴也〻音
安之比奇能山邊爾乎禮婆保登等藝須木際多知久吉奈
可奴日波奈之
あしひきのやまべをれば[illegible]きすこのまたちくきこゑのぬひなし

ちくきハこゑくるまされバこゑのまくきとよめる者ゝ
保登等藝須奈爾乃情曽多知花乃多麻奴久月之来鳴登
餘年流
ほとゝぎすなほのこゝろぞたちばなのたまぬくつきのきふきとよむる
月一の一ハ仮字
保登等藝須安不知能枝爾由吉底居者花波知良年奈珠
登見流麻泥
ほとゝぎすあふちのえだにゆきてゐバはなハちらんたまとみるまで
ちるまでとハたまるの字楝の字と苦むる要文ゆるとりて点とう
こゝなをもるまでとハ[illegible]
右四月三日内舎人大伴宿禰家持從久邇京報送弟書
持

思霍公鳥歌一首　田口朝臣馬長作

保登等藝須今之来鳴者餘呂豆代爾可多理都具倍久所念可毋

ちゝぎすいまゝきなくのはつこゑをたれかもほゝゑまさるこゝろにかもつくべく

いまゝのゝはつこゑなれかもとゝはるはたのをゝはつるはつかに

右傳云一時交遊集宴此日此處霍公鳥不喧仍作件歌以陳思慕之意但其宴所并年月未得詳審也

山部宿禰赤人詠春鶯歌一首

安之比奇能山谷古延底野豆可佐爾今者鳴良武宇具比須乃許惠

あしひきのやまたにこえてのづかさにいまはなくらむうぐひすのこゑ

せのうきをを堅田にかりの年毎のつゝさわたりかも

右年月所處未得詳審但隨聞之時記載於茲

十六年四月五日獨居平城故宅作歌六首　之中猶忘れたるを追ひ出ぬ故を重ねて

橘乃爾保弊流香可聞保登等藝須奈久欲乃雨爾宇都路比奴良久

たちばなのにほへるかもほとゝぎすなくよのあめにうつろひぬらん

花のちるとうつろひにけれかもほとゝぎすなくよのあめにうつろひぬらん

ほとゝぎすの枝のもえねをうつろひにけれかもなくよのあめにうつろひぬらん

保登等藝須夜音奈都可思安美指者花者須具等毛可禮受加奈可毋

ほとゝぎすよこゑなつかしあみさゝばはなはすぐともかれずかもあらん

あみさすハ細張ゝ、さゝハ橘の花ゝ、新樣万葉ふ、まち泉あみさう
ゝ、花ちゝばうつろひぬべきゝ
橘乃爾保散流苑爾保等登藝須鳴等比登都具安美佐散
麻之乎
たちばなのにおつるそのにおとゝぎすあくとひとつぐあみさゝまゝと
人告心細こめてゝ
青丹余之奈良能美夜古波布里奴禮登毛等保登等藝須
不鳴安良久爾
あをにより、ならのみやこハぬれどかとほとゝぎすなのぶあゝふくふ
久遠の京の栄ふる此ちれバ奈ゝとあるさゝいふ、岩十六とつくり
じぎまをやゝしよゝて、ゝまゝまゝるまのあふりゝぎまゝ
久の上奈を脱せる

鶉鳴布流之登比等波於毛弊禮騰花橘乃爾保敷許乃屋
度
うづらなくふるさとひとハおもへどはなたちばなのにほふこのやど
うづら鳴旧
加吉都播多衣爾須里都氣麻須良雄乃服曽比獵須流月
者伎爾家里
かきつばたきぬにすりつけまちをのきゝひがりするつきハきふる
者ハ住のえのあゝハと乎のこのきつゝきゝあるもをつけきんにもてゝ
ゝもちゝ此物ハ某物ゝ者十六う月とゝ月の行ゝる某物つゝるゝ者ゝゝ
めゝふ同ゝさゝきゝるひゝゝハ宮ちゝ競物ゝハあゝゝゝて、服裝て物ゝもゝ
立の者ゝぬのかゝぎゝあのゝこゝ伎曽倍ゝゝゝゝいゝゝゝ立の者
なるハ変家同者のゝゝく服裝とゝゝ服裝ゝハゝゝ

酒ヲ海ニ誤

まことに法の例とぞ

右六首歌者天平十六年四月五日獨居於平城故郷舊宅大伴宿禰家持作　六首とは、ふる舊宅とは、ふまでサ二字之處なり、故ゆゑにあれば、なほさとよりて

天平十八年正月白雪多零積地數寸也於時左大臣橘卿率大納言藤原豐成朝臣及諸王諸臣等參入太上天皇御在所中宮両院供奉掃雪於是降詔大臣參議并諸王者令侍于大殿上諸卿大夫等者令侍于南細殿而則賜酒肆宴勅曰汝諸王卿等聊賦此雪各奏其謂

雪或作を考るに、豐成ハ天平サ年三月大納言なれば、此はいまだ中納言なれば、大ハ中の誤ぞ、供奉掃雪ハ、御前に侍て雪をはらふなり、こみてこそ、なり、細殿ハ和名抄廊保曽止乃殿下外屋也とる、正月の下日と

なるこの、太上ハ元明天皇ぞ、元處なり酒とをふなり、天王の字元、備王の下諸の字元、両院を西院ぞ、酒を海ぞ誤、元處なり酒とをふなり

左大臣橘宿禰應詔歌一首

布流由吉乃之路髪麻泥爾大皇爾都可倍麻都禮婆貴久毋安流流香

ふるゆきの、しろかみまでに、おほきみに、つかへまつれば、たふとくもあるかな

紀朝臣清人應詔歌一首　後紀和銅七年従六位上とあり、天平元年ぞ、つぎ、古位を屬て、勝宝五年七月散位従四位下とあり、卒

よしゆ

天下須泥爾於保比底布流雪乃比加里乎見禮婆多敷乃久毋安流流香

あめのたてゝもちでにおりひて、ふるゆきのひのもとをこれバ、ふるくもあるこの
ゆあるものをを天下をあまねる大法勢ゆ望てゝ、已ゆハ盡の
ことなり

紀朝臣男梶（ヲカジ）應　詔歌一首　後紀天平十五年正六位上紀朝臣
小楫ゆ外從五位下を授と乃えたまふ出ゆ

山乃可比曾許登母見延受乎登都日毛昨日毛今日毛由
吉能布禮禮婆

やまのこのひそてことともみえずをとつひもきのふけふもゆきのふれゝば
かひハ心の間をゆ、雪のゑく積りて硬も堅れりとい

葛井連諸會（モロエ）應　詔歌一首　後紀天平十七年正六位上葛井連
諸會ゆ外從五位下を授と云ふ出ゆ

新年乃波自米爾豊乃登之思流須登奈良思雪能敷禮流

乃ノ下波ヲ今婆ニ誤

波

あらたきとしのはじめにさよのとゝ出るまとあらゝゆきのふれるは
ハ本年乃の下波と婆ゆ誤、元廣本婆ゆ改つ波の下波と元廣本婆ゆ改る、
漢書元帝豊年之瑞、ゆ外ゆ雪降と豊年の瑞ゝ云ふ故
因ゆ乃、出るまとあらゝハ出るゝあゝハ出るゝあんといふ

大伴宿禰家持應　詔歌一首

大宮之宇知爾毛刀爾毛比賀流流麻泥零須白雪見禮杼安
可奴香聞

おほみやのうちにもとゝにもひかるまでふれる雪ゆきをれどあゝぬかも
あらたハ出るを迎ゆ、元廣本ゆ改ハ類の字の誤ゆ

藤原豊成朝臣　後紀神亀元年二月正六位下ゆ從五位下を授
ゆつぎ〳〵友位とゝあるハ誤ゆて、ひゝ宝字八年復右大臣ゝ云ゝ

神護元年十一月薨、

巨勢奈底麻呂朝臣　後紀天平元年三月正六位上より外従五位下を授、そのゝち次〻時て勝宝元年従二位大納言ゝ中元麻呂底と号す

大伴牛養宿禰　後紀和銅三年従五位下遠江守ゝ〻ゝ次〻

友位を以て勝宝元年正三位中納言ゝ〻同国五月薨元麻呂養と飼小伯

藤原仲麻呂朝臣　後紀天平六年正月正六位上より従五位下を授、次〻友位を以て宝字二年大保と任し、勅姓中ゝ恵美の二字を加、名を押勝と又同八年逆謀頗泄て、石村石楯押勝を斬ゝ

三原王　舎人親王の子ゝ〻ゝ

智努王　後紀養老元年正月無位より従四位下を授、次〻友位を以て、天平十一年治部卿ゝ

船王　舎人親王の子ゝ〻ゝ

綱ヲ今綱ニ誤

邑知王　後紀天平十一年正月無位大市王と位四位下を授ゝ〻ゝ後文宝真人の姓を賜、次〻友位を以て、宝亀十一年十一月前大納言正二位文宝真人邑珎薨、邑珎八三品長親王第七子也ゝ〻ゝ

山田王　紀ゝ〻ゝ、元慶年山を小と化、小田王八後紀天平六年正月無位より従五位下を授ゝ〻ゝ

林王　後紀天平十五年無位より従五位下を授、それより次〻ゝ宝亀二年従四位上三島王之男林王之姓山邊真人と賜ゝ〻ゝ

穂積朝臣老　ゝ〻ゝ

小田朝臣諸人　小の下治と脱せり、後紀天平九年外従五位下小治朝臣諸人と散位頭ゝ〻ゝ

小野朝臣綱手　後紀天平十二年正六位上小野朝臣綱手ゝ外従五位下を授ゝ〻ゝ

高橋朝臣國足　後紀天平十五年正六位上より外従五位下を授けたまふ

太朝臣徳太理　後紀天平十七年正六位上太朝臣徳足より外従五位下を授けたまふ

高丘連河内　上に見えたり

秦忌寸朝元　後紀養老三年秦朝元の忌寸を賜ふ　同五年従六位上にたまへり　天平七年外従五位上、十八年主計頭となる

懐風藻云、辯正法師者俗姓秦氏、中略大宝年遣学唐国時、遇李隆基

詔潛之日、以善圍基、屢見賞遇、有子朝慶朝元法師及慶在唐死、元慶

本朝仕至大夫云々

櫛原造東人　後紀天平十七年正六位上より外従五位下を授けたまふ

後駿河国守たり、部内廬原多故浦濱に黄金を獲て献じ奏す、

東人等に勤臣の姓を賜ふ

右件王卿等應詔作歌依次奏之、登時不記、其歌漏失、但秦忌寸朝元者、左大臣橘卿謂曰、靡堪賦歌、以麝贐之、因此默止也　朝元八度まで賜れるに懐風藻にはよまぬかゆゑ

のひめ出せりいそ打ちなびき、麝は麝香なり、朝元者の下数語脱ちたるゆゑ、元度を魂と字を十とす

大伴宿禰家持以天平十八年閏七月、被任越中國守、即取七月赴任所、於時姑大伴坂上郎女贈家持歌二首

後紀天平十八年六月壬寅家持を越中守となす、紀六月に閏なし

久佐麻久良、多姚由久吉美乎、佐伎久安禮等、伊波比倍須恵都、安我登許能幣爾

くさまくらたびゆくきみを、さきくあれといへばぞ立つあがとこのべに

ぎさいきびと等故敏太須恵呉とゝあれば床の方へ古へ拉ちる流の庭と
奇てるうかゞくまんゆ和産のでいてるハ古へも拉之る人の妻戒ハ初ー
きくも産之所ちるすゝくかくいてるこの
伊麻能其等古非之久伎美我於毛保要婆伊可爾加毋世
年須流須邉乃奈左
いまのごとこひくきみがおもかをばいのふこのもせんするちべのなさ
ものハ恨之君とゝいてとゝ〳〵のく乍るゞ〳〵なゝばおれて後にうふ
せんとゝちるちべハせんちべふ同ー

更贈越中國歌二首

多姚爾伊仁思吉義志毛都藝底伊米爾美由安我加多孤
悲乃思氣家禮婆可聞
たびにいすきみゝもつぎていめふみゆあゞかくこひの志けれバのも

君ハおもかはねど乍乃君の志けきなゝ其ひねの義ゝ乃ゝ
美知乃奈加久爾都美可未波多姚由伎毋之思良奴伎美
乎米貝美多麻波奈
みちのなかくふつみのをいたびゆきも志らぬきみをめぐをたまハな
ゝちのおうハ越中をゝ国つ法神ハ越中ゝいを乍神ちをゝ
らぬハ君不知ゝ今ゝるまれぬとゝ乍ゝ同ー君ハ志ゝ
平群氏女郎贈越中守大伴宿禰家持歌十二首
吉美爾餘里吾名波須泥爾多都多山絶多流孤悲乃之氣
吉許呂可毋
きみよりわがなハすでにうつやまたえゝるこひの志げきころのも
名ハ之ゝ乍ゝ流田ゝいひ乍ゝ志ゝ乍ゝ絶ゝ乍ゝ平群
歌ゝ乍ゝ平群ゝ氏ゝ乍ゝ女ゝ乍ゝ郎ゝ乍ゝ贈ゝ乍ゝ越ゝ乍ゝ中ゝ乍ゝ守ゝ乍ゝ大ゝ乍ゝ伴ゝ乍ゝ宿ゝ乍ゝ禰ゝ乍ゝ家ゝ乍ゝ持ゝ乍ゝ歌ゝ乍ゝ十ゝ乍ゝ二ゝ乍ゝ首ゝ乍ゝ

須麻比等乃海邊都禰佐良受夜久之保能可良吉戀乎毋
安禮波須流香物
ちまびとのうみべつねさらずやくもつのがらきこひをするかも
をさらずはなるはぐと離れぬる
阿里佐利底能知毛相年等於毋倍許曽都由能伊乃知毋
都藝都追和多禮
あかさきてのちもあふむとわれもくこそつゆのいのちもつぎてわるれ
あかさきてはなるこてしらいつる同じ宮ちゝ玄とりゝは年月日時の
任ものくまくらうれバタされバるどつて同じ、なくこそハなりくバ
こてのバと略ゝ
奈加奈可爾之奈婆夜須家年伎美我目乎美受比佐奈良
婆須敝奈可流倍思

なのりそふ　ちまのバやたゝくきみがめとみずひさかたバちくぶおのるべし
巻十二三の句同じくて出るもの入るき当ぬるりくるかたる
許毋利奴能之多由孤悲安麻里志良奈美能伊知之路久
伊泥奴比登乃師流倍久
こかりぬのたてゆこひあまりたてるなみのいちしろくいでぬひとのたるべく
信れる活のあの活て活之ぬくとあびはるていちしろく色出めるを敬ふ
いりこ巻十二まるを引ると敬ふ
久佐麻久良多妣爾之婆可久能未也伎美乎夜利都
追安我孤悲乎良年
くさまくらたびにしばかくのみやきみとやるつあがこひをらん
たびらくいるハさきと久迷の京一紀きと又越中一紀とりゝかくのみや
こひをらんといるハ活とうけているハあゝぞ高ぼのるまてかく決て

草枕多妣伊爾之伎美我可敝里許年月日辛之良年須邊
能思良難久
可久能未也安我故非辛浪年奴婆多麻能欲流乃比毛太
爾登吉佐氣受之底
佐刀知加爪伎美我奈里那婆古非宋也等毋登太示於毛比
出安連曽久夜思伎

辛八手誤

餘呂豆代爾許巳呂波刀氣底和我世古我都美之乎見都
追志乃備加禰都毋
よろづよふころはけてわがせこがつみしてみつ土のびのねつも
よろづよにいつまでのことけて八絵でも文屋なりと等ふ作乎
を手ふ飛よろづよと八方代までくいつことてとるべつこまえ
てもたぐちるゆえてよしつみしは古今集みを京棚引のべのこころ

爾ヽヲ爾之ニ誤

ふしちりうえてーぐるくしつむやーこしてつむるひーく、ゑるるゑるゑ
ぐこつむハルを命るの男をちるぐ、ガとつむちぐいてくこれハ家
せてぐまとつ〻こ〻ーあーとるえてこのびあくぬーいる

鶯能奈久久良多爾爾宇知波米底夜氣波之奴等毋伎美
乎之麻多武

うぐひすのおくくらたにうちハめてやけハこぬとも君をまつらん

ふしと今年ふしを誤元歟ふよりて改ハ泉谷より出る如ハ、
谷しいちんとて一二の白ハおなかくらくふハ暗谷まて、日のめも見えな
谷をいふ、宣ちを大後頃る、高山之志短山之志理佐久那太理ヲ藤多
支都速川ミくといるさくるぐうハ谷ちのくらこ水ハ、佐ハ佐
のせるて、出下垂之川水の山より落るさまをいるよ、後世の樵ま
歌しくいてゆ、うちをめてハちた日記もりりくうちをめつぐ

まて投入るるゑ、やけハ土高ちハ大葵といろ

麻都能波奈花可受爾之毛和我勢故我於毋敝良奈久爾

毋登奈佐吉都追

まつのをちをもなずふーもわがせこがおもへらくはとをきてて

松の色ハうるハしく花ーりてくもるきりのるれハ多ふこと、結
ゐるさきてといるハ色ゑ出て来ることゑ

右件十二首歌者時〻寄便使来贈非在一度所送也

八月七日夜集于守大伴宿禰家持館宴歌

秋田乃穂辛伎見我底利和我勢古我布佐多乎里家流乎
美奈敝之香物

あきのたのちむをみがてりわがせこがふさたをりるるとをとをかも
をがてりハをがてらくをがせこハ沈ちをとをさて、ふさたをりハ者ハすをみ

の夢のなごりの花をこそとうしとみくふさハなきこすゑ分ける
さりといふ池を女郎花とおもはすとおもはくはるるれ
次のかしらの
右一首守大伴宿禰家持作
手美奈敝之左伎多流野邊乎由伎采具利吉美乎念出多
毋登保里伎奴
をみなへしさきこるのべをゆきめぐりきみをおもひでたもとうるほす
たもとうるハ涙細之
安吉能欲波阿加登吉左牟之思路多倍乃妹之衣袖伎牟
餘之毋我毛
あきのよハあかときさむしいとろこのいもがころもをかりてきんかも
任国ゆくに京の妹を思ふ

保登等藝須奈伎底須疑爾之乎加備可良秋風吹奴余之
毋安良奈久爾
ちくさにぎてなきてもぎすをとこのひのこゑあきこうぜよきぬがもあらなくに
をとこハ男ヒ　ひのこゑハ思ひのこと　宮ぎらよハよそうちくくよ
右三首掾大伴宿禰池主作
氣佐能安佐氣秋風左牟之登保都比等加里我来鳴牟等
伎知可美香物
けさのあさけあきこのせさむしとつひとかりがきなんときちかこのも
遠つく枕付
安麻射可流比奈爾月歴奴之可禮登毛由比底之紐乎登
伎毛安氣奈久爾

掾ヲ掾ニ誤ル下同

紐ヲ紅ニ誤ル

あまざかるひなにつきへぬますらをのねもしゆひてしひもをときてもあけたくに
妹が結ひし紐をこそ解ぬるとは解あけハ解けハ文解さけと書く
よれバ解あけて解遊（サケ）のことの、

右二首守大伴宿禰家持作

安麻射加流比奈尓安流和禮乎宇多我多毛比母毛登吉佐氣底於毛保須良米也

あまざかるひなにあるわれをうたがたもひもときさけておもほすらめや

うたがたハ纏盤にて、とく消るものなれバはかなしといふをまとふ也、巻十二
巻十五にいへる、紐解ねてゆめにやといふ事ぞこの意也ハ返してよむは
なれバ、紐解ぬをとるも、さけてとて逢見るべきといふ
べきを、さけてといへるなり、我をの妹が忘れたるなるべし、古本比母の下毛
の字なし

右一首掾大伴宿禰池主　依ふとしき作の子と脱たり

伊弊爾之底由比底師比毛乎登吉佐氣受念意緒多禮賀思良年母

いへにしてゆひてしひもをときさけずおもふこゝろをたれかしらむも

末ハ汝の上こゝろがくしハ知人あらじといふ也、母ハ助辞也

右一首守大伴宿禰家持作

日晩之乃奈吉奴流登吉波乎美奈弊之佐伎多流野邊乎遊吉追都見倍之

ひぐらしのなきぬるときはをみなへしさきたるのべをゆきつゝみべし

をみなべしハ多く女にたとふれバ日ぐらしの鳴夕ぐれは行なんと云意なるべし

右一首大目秦忌寸八千島　元暦本に千を十に作

古歌一首　大原高安真人作　年月不審但随聞時記載茲焉

拾穂ものたの三の奴婆多麻乃の下、奈呉能浦安麻能のよる次でうたゝ
ものゝなるべし

伊毛我伊弊爾、伊久理能毋里乃、藤花伊麻許年春毛都禰
加久之見牟

いもがいへにいくりのもりのおちのまつ、いまらんはるもつねかくしこそむ

神名帳越後国蒲原郡伊久礼神社多、礼と里とをこゝにかゝるのもかなを
ちらんさくはなのもとにいくゝゝいひて、未ハ蕊子のあるハ花をのこす
ぶみこんまちいつまぐゝかくゝゝやうこそいふ

右一首傳誦僧玄勝是也

鴈我禰波、都可比爾許年等、佐和久良武秋風左無美、曽乃
可波能倍爾
かりのねハつかひにこんとさわぐらんあきのゆさむをそのかへのべに

考ナ五層を使ひてゝゝとよるゝ鴈とハ使とよむる字ゝ、さるにハ宮
さるのことなれハ初るのとへ口ゝそゝるべゝ、さ川といふハ京の中の川をゝゝ

馬並底、伊射宇知由可奈、思夫多爾能、伊欲吉伊蘇末爾、與
須流奈弥見爾
うまなめて、いざうちゆうちなびたゝのさきいそまに、ものするをみゝ
うちハ泊ゆうゝハゆうゝゝちゝさにハ海中

右二首守大伴宿禰家持

奴婆多麻乃、欲波布氣奴良之、多末久之氣、敷多我美夜麻
爾、月加多夫伎奴
ぬばたまの、よハふけぬらし、たまくしけ、ふたがみやまに、つきかたぶきぬ

二上山ハ大和ものあれど、そハ遠ゆく、ぬばたまの、むくしけ、枕詞

右一首史生土師宿禰道良

大目秦忌寸八千島之館宴歌一首

奈呉能安麻能都里須流布禰波伊麻許曽婆敷奈太那字知底安倍底許藝泥米

なごのあまのつりするふねいまこゝよおだまうちてあへてこぎでめ

なで敏中心、和名抄袍不奈太那大船旁板也、うちてハとうつくるとよるゝん、

海原をそこゝてゆく舟のうごさまをかんして結とゝ、宣考三人うち

ふちごまとかまくらつゝ、そ言ゝ奥のよりくるとゝいて、好考ベー

右館之客屋居望蒼海仍主人八千島作此歌也　之房本

海と波ヨ仍

哀傷長逝之弟歌一首并短歌

安麻射加流比奈乎佐米爾等大王能麻氣乃麻爾末爾出

あまざかるひなをさめゝとおほきみの、まけのまにくいで

而許之和禮乎於久流登青丹余之奈良夜麻須疑底泉河

てこしわれをおくるとあをふよしあらやまもぎていづみがわ

伎欲吉可波良爾馬駐和可禮之時爾好去而安禮可弊里

きよきかはらにうまとめわかれしときによくゆきてあれかへり

許年平久伊波比底待登可多良比底許之比乃伎波美多

こむたひらくいはひてまてとかたらひてこしひのきはみた

麻保許能道乎多騰保美山河能弊奈里底安禮婆孤悲之

まほこのみちをたどりみやまかはのへなりてあれば恋し

家口氣奈我枳物能乎見麻久保里念間爾多麻豆左能使

くけながきものをみまくほりおもふあいだにたまづさのつかひ

乃家禮婆宇禮之美登安我麻知乃敷爾於餘豆禮能多婆

のければ、うれしみとあがまちとにおよづれのたば

毛下波婆ニ誤

許登等可毛波之伎余思奈第乃美許等奈爾之加毋時之
こゝこのもはしきよしおせのみことおふしかとさきし
波安良牟乎波太須酒吉穂出秋乃芽子花爾保弊流屋戸
ハあらむをはだもゝきろづるあきのもぎのちふふつるやど
乎言斯人為性好愛花草花樹而多植於寢院之庭故謂之花薫庭也安佐爾波爾伊泥多知
あさかをにいでたち
を
奈良之暮庭爾敷美多比良氣受佐保能宇知乃里乎往過
ならゝゆふはゝみたひらげうさほのうちのさとをゆきすぎ
安之比紀乃山能許奴禮爾白雲爾多知多奈婢久等安禮
あしひきのやまのこぬれにしらくもにたちたなびくとあれ
爾都氣都流佐保山火葬故謂之佐保乃宇知乃佐乃寺由吉須疑
につけつる

万解十七上　廿四

ひろをさあをとハ部治ふとそて家持を越中の任るとしハ
ハ任之ハ好を義とんまきゝもよひ〳〵こ日のさかみハ任ハ
ゝゝ玄ゐ来一日を限りまいりきと、ろとゝ〳〵のたハ教法、ち
まて八濤りそ之、けまき、いこてハ多て後の日久しき之使のくれ〳〵、来さ
れハのこと、又おハ来の法ともるゝ〳〵、あゞまちゝふをハ君待て向之
およゝれのたゞこゝ〳〵うも、老三およつれゝ吾中つる相こゝろわゞ中つる今按ニ誤
ゝ、光仁紀左大臣藤原永手薨時詔之、於与豆礼加毋多波許止乎
加毋ゝ、たゝ〳〵ハ哉ゝ之、奈第ハ汝第之ハ第ハ爽をんちゝふくおせと
例べ、神代紀日神曰吾第ゝ〳〵とゝ、わゞおせのみゝ〳〵例、和名抄備中下道
郡第駅、例注勢ゝ、はゞきゝ之廣を婆と波と他ゝとゝ〳〵ゝ、紀ハ
ふゝ〳〵ふみまらけずの不のゝ、ゝ、の注ゝかゝて、紀ゝ出之たゝ〳〵さゞ、
ゝ〳〵ふゝ〳〵ゝ〳〵げず〳〵二白〳〵ゝ〳〵れ、紀ゝ〳〵ゝ〳〵せ〳〵の、ゝ、ゝ

[illegible]げずといふあるべし、こゝにあれハ白玉ふるハ火華の縁といふ、
[illegible]の俗ハ佐保山ハ十八字にかゝるなり、ちなみに小まちをうたへる、
[illegible]ハ[illegible]の紀言の落ハ反音とよぐく甘ぐく伊考反音のごとし
[illegible]ハ多くれハ[illegible]のごとくふるべきこ

麻佐吉久登伊比底之物能乎白雲爾多知多奈姚久登伎
氣婆可奈思物

まさきくといひてあをさくしにたちたなびくとぎけばかなしも

白玉ふハ白玉のぬかのごとく火華の縁とよ

可加良年等可禰底思理世婆古之能宇美乃安里蘇乃奈
美毋見世麻之物能乎

かくらんとかねてしりせばこしのうみのありそのなみもみせましものを

ありそハ荒磯なり、[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ものをといふかなり

右天平十八年秋九月二十五日越中守大伴宿禰家持
遥聞弟喪感傷作之也

相歓歌二首　越中守大伴宿禰家持作

庭雨敷流雪波知敝之久思加乃未爾於毋比底伎美乎安
我麻多奈久爾

ふりまがるゆきハちへしくしのにおもひてきをとあがまたなくに

[illegible]ハ[illegible]ぬ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

沉ヲ淺ニ
尼ヲ柱ニ
張

白浪乃余須流伊蘇末乎榜船乃可治登流間奈久於毋保
要之伎美
きてなこのようするいそまをこぐふねのかぢとるまでにおもおもしきみ
とハるをいくん序のミ末ハるをひちまをつるとよろぶをとうめう
右天平十八年八月掾大伴宿禰池主附大帳使赴向
京師而同年十一月還到本任仍設詩酒之宴彈絲飲樂
是日也白雪忽降積地尺餘此時也復漢夫之船入海浮
瀾爰守大伴宿禰家持寄情二眺聊裁所心　言情二眺ト八
をとゝゝ二つのをきてよろせくはりてるとのづをを
忽沉尼疾殆臨泉路仍作謌詞以申悲緒一首并短歌
沉ヲ本淺ヲ淺之誤本ハ尼ヲ柱ヲ改尼字ヲ本贏
也弱也ト云

大王能麻氣能麻爾麻爾大夫之情布里於許之安思比奇
おゝきみのまけのまふゝまますらをのこゝろおこしあしひき
能山坂古延底安麻射加流比奈爾久太理伎伊伎太爾毛
のやまさかこえてあまざかるひなにくだりきいきだにも
伊麻太夜須宋受年月毛伊久良毋阿良奴爾宇都世美能
いまだやすめずとしつきもいくらもあらぬにうつせみの
代人奈禮婆宇知奈奴比吉等許爾許伊布之伊多家苦之日
よのひとなればうちなびきとこにこいふしいたけくのひに
異益多良知禰乃波波能美許等乃大船乃由久良由久良
けにまさるたらちねのはゝのみことのおほふねのゆくらゆくら
爾思多呉非爾伊都可聞許武等麻多須良武情左夫之苦
に思多呉非爾伊都可聞許武等麻多須良武情左夫之苦
ふとてくごひにいつこのもてむとまたすらんこゝろさぶしく

波之吉與志都麻能美許登母安氣久禮婆門爾餘里多知
はしきよしつまのみことも あけくれば かどみよりたち
已呂母泥乎遠理加弊之都追由布佐禮婆登許宇知波良
ころもでを はるかへりつゝ ゆふされば とこうちはらう
比奴波多麻能黒髪之吉底伊都之加登奈氣可須良乎曽
ひぬばたまのくろかみよきて いつしかとなげかせらんぞ
伊母毛勢母和可伎兒等毛波乎知許知爾佐和吉奈久良
いもせもわかきこどもは をちこちに さわぎなくら
乎多麻保已能美知乎多騰保彌間使毛夜流余之母奈之
をたまぼこのみちをたどりかねまつのひしやるよしもなし
於母保之伎許登都底夜良受狐布流爾思情波母要奴多
おもほしきことつてやらずこふるにしなえぬた

麻伎波流伊乃知乎之家騰世乎須辨能多騰伎乎之良爾
まきはるいのちをしけどせんすべのたどきをしらに
加若思底也安良志乎須良爾奈氣枳布勢良武
かくしてやあらしをすらになげきふせらん
ひるはくらしきゝ歌ゝだつまりてこゝうちなびきゝふるゝ
こいとゝもゝ同じくゝ作るなるを言ねいてゝくゝのハりくゝ
ゆくりくゝハ地ゝひよゝの効くとゝ、ちくゝ、ゝ
ハ雨まれゝバ、衣ゝとゝ、ハ神を祈ゝ迎ゝ寝れゝバ
いもせゝわのきこゝゝハ女ゝ男ゝ
んハゝゝ一焼焔のゝゝ所焼、
てゝハ生ゝんハ生ゝゝてゝあれゝバ
えゝゝの男、あゝ男ハ荒男

世間波加受奈吉物能可春花乃知里能麻可比爾思奴倍
吉於毋倍婆
よろづのものがたりもさきのものなるばなあちらのまがひはたぬぎ捨てば
はなはよのはかなきものとあらそふ年月の数のちくなきをも
山河乃曾伎敝乎登保美波之吉余思伊毋乎安比見受可
久夜奈氣加年
やまのそきへをとおもはまよいもとあひみずのくやなげかん
そきへは巻十九に山の谷伎敝のさはに、手かれ月多し、波はいつ、
山川のそきへはるかに京より遠放たる所なり
右天平十九年春二月二十日越中國守之館臥病悲傷
聊作此歌

守大伴宿禰家持贈掾大伴宿禰池主悲歌二首并序
并序の二字とかなり同様なるよりて補
忽沉恙疾累旬痛苦禱特百神且得消損而由身體疹羸
筋力怯軟未堪展謝係戀彌深 恙を枉と誤れり月令を以て病
るなる神よりもたしておこるなれバ病もたしき
うちもさくおきて当のたるのいやまさること、方今春朝
春花流馥於春苑春暮春鶯囀聲於春林對此節候琴罇
可翫矣雖有衆興之感不耐策杖之勞獨臥帷幄之裏聊
作寸分之歌輕奉机下犯解玉頤其詞曰 流馥ハ美のこと、
策杖ハ杖策と云ハるを誤れるなり、寸分ハ少しなるなり、
なるべし、既奉まつ犯解とは、ハなりげしかこめる、花鳥の興ハ楽で
遊びきをうちるとは、上よりるまかぶるるとて、これこれをるまるよ、此之のと

よそにみてをるよしハ頤々頓に花る、一かふよりて改
波流能波奈伊麻波左加里爾仁保布良年乎里底加射佐
武多治可良毛我母
はるのはないまはさかりににほふらんをりてかざさんたぢからもがも
たぢからハ手カシ
宇具比須乃奈枳知良須良武春花伊都思香伎美登多乎
里加射左牟
うぐひすのなきちらすらむはるのはないつしかきみとたをりかざさん
天平二十年二月二十九日大伴宿禰家持 二十年ハ十九年
の誤なるべし、下に至て二十年正月としあり
○こゝに池主より家持へ贈る言の序なといふ標すべきを脱せり
忽辱芳音翰苑凌雲兼垂倭詩詞林舒錦以吟以詠能蠲

戀緒 倭詩ハ歌のことといへり、今翰苑凌雲といひて並ていへるを見れバ歌を
よ賦のさしやうなれど、こゝハ序文のことなるべし、凌雲ハ目に見えぬが倭にて
こもふことをよみあらはすのみならず天地をも目に見えぬ鬼神をもかんぜしむるやうなるをいふなるべし、
蠲恋緒ハこゝろのおもひをさらしむるなり、春可樂暮春風景最可怜紅
桃灼々戯蝶回花儛翠柳依々嬌鶯隠葉歌可樂哉淡交
促席得意忘言樂矣美矣幽襟足賞哉 春可樂此春の下脱字あるべし、
灼々ハ毛詩に花盛也と注せり、儛ハ舞に同じ、荘子に君子の交ハ淡きこと水のごとし、依々ハ枝の
なびくなり、淡交ハよき人のまじらひなるをいへり、まじハるなれば礼記にみゆ、促席ハむか
ひ促膝ともあるに同じ、意を得て忘言ハ心のあひて何ともいふべき言もなきをいへり、幽襟ハ
みやびなる心、おもひをもちて心におぼゆるにつけていひて、あはれの春朝春花を
といひおこせたるなりけるなり 豈慮乎蘭蕙隔藂琴罇無用
空過令節物色軽人乎所怨有此不能黙止俗語云以藤

續錦聊擬談咲耳　系蔓陽藪とハうやびをのわらくさのことゝ物名

こゝハ花名のことゝ、それとなぞらへしもとせねバ長ゝ

あるづらんこゝ、なづるゝ、惡廣藪より因怨ゝゝ、藤ハあゝゝの藤原

ちゞできて、蕗布ゝいゝゝ文ゝことゝせんに仰げやきなどゝいゝと

たゝくゝゝ、有此の有ハ在の誤ちなるべし

夜麻可比爾佐家流佐久良辛多太比等米伎美爾彌西底

婆奈爾乎可於母波年

やまがひにさけるさくらをたづひとめきゝふみせてだにあふとおもはん

やまがひハ尚ゝ、之唐牟可と我ゝ仰ゝがを留べき詞ゝ、ゝてばハかせ

ゝゝバゝ

宇具比須能伎佐奈久夜麻夫伎宇多賀多母伎美我手敷禮

受波奈知良米夜母

姑洗二誤

うぐひすのきゝなくやまぶきうゝがくもきゝこゞてゝれずあちらめやし

うゝぐひすハきのるきゝとゝみくゝゝハたゞゝものゝとゝるる、ゝゝゝはゝて

ちゝちゝえとゝゝ

姑洗二日掾大伴宿禰池主更贈歌一首并短歌　此詞は大伴宿禰家持の誤ちゝ宜べきゝ、池主ゝ

おくるゝ

含弘之德垂恩蓬體不賞之思報慰陋心載荷未春無堪所喻也　含弘ハ易ゝ出て大德と云蓬體ハあゝ蓬身ゝ云ゝ同じゝ、不賞の賞ハ誉の誤ゝ、史記の伯夷不可誉量ゝゝ、載荷未春ハ宣ちゝ、載荷来春とゝゝゝと誤れるなるべし、来春とハ池ゝゝの文をおくれるとゝ、春ハかゝりゝゝの

ゝゝゝゝゝゝ、但人稚時不涉遊藝之庭横翰之藻自迄乎

彫蟲鳥幼年未逕山柿之門裁歌之趣詞失乎藪林矣爰

酬ヲ朝 誤

辱以藤續錦之言更題將石同瓊之詠因是俗愚懷癖不能默止仍捧數行式酬嗤咲其詞曰 述義ハ論語ふる物なり

横猯之藻ハ文とかくるゝ彫蟲ハ漢の揚雄が言なくさとりらは文ハ小人の業なりけるゝ山柿ハ人麻呂ハ人〻叢林ハ藻林の語ゝ錦ハ後の

えのうこさふきびむちゝるものとるまぎらものとるハ為つかるゝ

ゝのさゞゝりけゝ

於保吉民能麻氣乃麻爾麻爾之奈射加流故之乎遠佐米

おほきみのまけのまゝにまゝくしなざかるこしをくさめ

爾伊泥底許之麻須良和禮須良余能奈可乃都禰之奈家

ていでこしまさらわれすらよのなかのつねしなけ

禮婆宇知奈婢伎登許爾已伊布之伊多家苦乃日異麻世

れば うちなびきとてふこいはいけくのひふりませ

家下一本久字有

婆可奈之家口許已爾思出伊良奈家久曾許爾念出奈氣

ばかなしけくこてふれもひでいらなけくそこおもひてなけ

久蘇良夜須家奈久爾於毋布蘇良久流之伎毋能乎安之

くそらやすけくにおもふそらくるしきものをあし

比紀能夜麻伎弊奈里底多麻保許乃美知能等保家波間

ひきのやまきへなりてたまほこのみちのとほけば ま

使毛遣縁毛奈美於毋保之吉許等毛可欲波受多麻伎波

つかもひやるよしもなみおもほしきこともかよはずたまきは

流伊能知乎之家登勢年須辨能多騰吉乎之良爾隱居而念

るいのちをしけどとせんすべのたどきをしらにこもりゐておもひ

奈氣加比奈具佐年流許已呂波奈之爾春花乃佐家流左

なげかひなぐさむるころはなしにはるはなのさかるさ

字ヲ年ニ波ヲ次ニ誤

孤ヲ狐ニ誤

加里爾、於毛敷度知、多乎里加射佐受、波流乃野能、之氣美
かり小、おもふどちたをりかざしざるの花〳〵げ〳〵
登妣久久、鶯、音太爾伎加受、乎登賣良我、春菜都麻須等、久
とびくゝうぐひすのこちぐふきこのざとめらが、わのふつまとく
豐年奈為能、赤裳乃須蘇能、波流流佐、米爾、爾保比比豆知底、加
れなるのあのものそのそるさめふにがひをづちて、の
欲敷浪年、時盛乎、伊多豆良爾、須具之夜里都禮、思努波、波勢
よよらんときのさのをくづらふ、そぐーやとつれ、出ぬだせ
流、君之心乎、宇流波之美、此夜須我、浪爾、伊母禰受爾、今日
るきみがこころをうるはしみこのよもすがらふいもねずよけよ
毛之賣良爾、孤悲都、追曽乎、流
もしめらふこひつゝぞをる

土なぎうる花、はまゝゝれ、丈夫我、うちちびき、下ゆ白上のちこの
ふもとあいるるけくゝ、八古事記仁徳條に高伊羅那鶏（イラナケク）區そこふ
おもひでうるーくこゝおもひでゝ、ゝとれて、妻伴云夫和語
我さまのいとくちくちくるとおもひたるふもちきくて、ぞ
抜てもうあげよくく、和名抄苛音何和名伊良ふ草生刺也、これよう
ば無苛のこと、又苛の字ハ嫌るといふるとこて、胸のいゝらゝとふるうん、
原氏物語こゝいれるどあるこ同じ、こふおりしぞそこ抜ひぞハ、
ゝとそこ同じ、ゝ許多古ゝとゝ出るとゝ、夜須ゝの下一本
久のこまゝ、たゞくくもようゝ、ゝ抜ちて、かれハ二の句二
字の語くゝ一ゝまゝ、ゝるふやそうゝちくゝゝ、ゝ、ゝ抜
ゝハ波多出、やまぎゝちて八山とまうゝゝて、ゝのようけどハ、遠ゝ
ゝの異、ゝ花のうう十八句、ゝ抜ゝ、ゝの白き時の姿をくゝづゝ

[illegible]

安之比奇能夜麻左久良婆奈比等目太爾伎美等之見底
婆安禮古非栄夜毋
あしびきのやまさくらだをひとめだにふきみてばあれこひめやも
[illegible]
夜麻扶枳能之氣美登毗久久賀能許恵乎聞良牟伎美波
登毋之毛
やまぶきのけだかきことをひとめだにきくらんきみをとりしも
[illegible]

泥ヲ尼ニ誤

[illegible]
伊泥多多武知加良乎奈美等許毋里為底伎彌爾故布流
爾許已呂度毋奈思
いでたちむちからをなみとこもりをるこころどもなし
泥を尼と誤る元暦本はもとより改つ[illegible]
三月三日大伴宿禰家持

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫
国書刊行会

万葉十七上終　三十四

国立公文書館
National Archives of Japan